

市ヶ谷出版社「対訳 日本の城と城下町」の構成内容 (29.8.28)

本書は、城と城下町に関する基礎知識を、「現状の写真」と「著者が自ら画いた図版」および「個人または諸団体が所蔵している文献」をもとに、解説しています。

(1) **城の構成** 姫路城は城のシンボルである天守群のほか、本丸、西の丸や三の丸を含む内郭、石垣や堀など、城の全容を留めているので、城の構成を説明するのに最も適している。本書の1から8で、1700年頃の様子を示す絵図からの復元も含め、姫路城を詳しく紹介している。

(2) **外郭について** 内郭の周囲に広がる外郭は、日本の城の特徴であり、そこには城下町が発展する。9から12で、姫路城と金沢城について紹介している。

(3) **城の立地** 平山城、山城、平城などに分類できるが、13から16で、姫路城、備中松山城、岡城、一乗谷、松本城、鳥羽城、福井城を紹介している。

(4) **城下町の構成** 城の内郭を囲むように、城下町ができる。17から19で、駿府城、姫路城、金沢城の城下町を紹介している。

(5) **城下町を囲む** 城の周囲には、堀、土塁、石垣が設けられる。20から22で、小田原城、高田城、江戸城、熊本城、姫路城について、それらの様子を紹介している。

(6) **石垣を積む** 石垣の石は、石切り場から切り出され、いくつかの手段で運ばれたのちに積まれる。23から25で、その様子を紹介している。

(7) **城下町の施設** 城下町には、番所、火の見、水道、芝居小屋、湯屋などの様々な施設がある。26から31には、江戸城の城下町について、それらを紹介している。

(8) **城が出来までの概要** 姫路にはもともと黒田官兵衛が築いた城があった。その後、秀吉が新たな城を造っている。外郭内全体を描いた屏風として、姫路城や金沢城のものが残されている。32, 33で、それらを紹介している。

(9) **城の配置** 城を設けるには、まず場所を決め、次に、郭の配置など設計を進める。中でも、天守の構成は、重要なテーマとなる。34から38で、これらについて、姫路城、高田城、福井城、五稜郭、丸岡城、松江城、松本城、を事例として解説している。

(10) **天守・櫓の構造と意匠、門の形式** 天守・櫓には、各城それぞれに様々な意匠が施されている。彦根城、熊本城、丸岡城、江戸城、犬山城、津山城、小倉城、姫路城、上田城、松本城の天守と櫓を39から43で、門の形式については、44, 45で紹介している。

(11) **城の建築工事** 建築工事については普請と作事、図面、軸組構法、壁、屋根から、大工の儀式、大工道具まで、46から54で、紹介している。

(12) **城内の御殿・城下の藩士の屋敷** 城内の御殿・城下の武家屋敷は、建築様式としては書院造であるが、その成立過程や意匠の特徴などを、55から58で紹介している。

(13) **各地の城について** 各地に残る代表的な74の城と遺構の特徴を紹介している。

(14) **索引** 索引は、多様な読者が本書を活用することを想定し、英語、専門用語、城、人名、の4種類作成している。

以上、本書を読む際に、城と城下町の構成と、造られ方、その中での生活などが想像されれば、さらに興味深く楽しんでいただけるものと思われます。